

第38回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時:平成 31 年 3 月 27 日 (水曜日) 10:00～12:00
- 場 所:仙台市役所本庁舎 2 階 第 2 委員会室
- 出席委員:小祝 慶紀 会長、小田 隆史 会長代理、阿部 由紀子 委員、
大庭 克己 委員、日下 晋 委員、佐々木 敦 委員、菅井 一男 委員、
多田 千佳 委員、西大立目 祥子 委員、深松 努 委員、牧野 弘明 委員、
村山 隆夫 委員

■ 欠席委員:菅原 陽介 委員、杉山 ふじ子 委員、山中 匠 委員

■ 事務局:仙台市建設局百年の杜推進部河川課

■ 内 容:

<次 第>

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事

- 1) 広瀬川創生プランに係る活動団体の認定制度について
- 2) 平成 31 年度 広瀬川創生プラン 取組事業の更新について
- 3) 平成 31 年度重点事業の設定について

4. 報 告

平成 30 年度重点事業の評価について

5. その他
6. 閉 会

■ 要 旨:

- 議事 1)、2)および 3)については、事務局提案が承認された。
- 平成 31 年度の協議会では、広瀬川創生プランの見直しを含めた推進体制の在り方について検討していく。

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（吉田課長）

只今より「第38回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。本日、司会を務める河川課長の吉田である。

菅原委員、杉山委員、山中委員においては、所用により欠席とのご連絡をいただいている。

2. 挨拶

○司会（吉田課長）

はじめに、小祝会長からご挨拶をお願いしたい。

○小祝会長

お忙しい中、お集まり頂き感謝する。円滑な議事に努めていきたいので、協力をお願いしたい。

○司会（吉田課長）

続いて、建設局長の小高より、挨拶申し上げる。

○小高建設局長

本日は、年度末の大変お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。また委員の皆様においては、日頃より広瀬川に係る様々な施策の推進にご協力を頂き重ねて感謝申し上げます。お蔭様で今年度も広瀬川創生プランにもとづく様々なイベントを無事に実施する事ができた。多くの市民の皆様にも、改めて広瀬川の美しさなどが伝わったのではないかと思います。本日の議事である広瀬川サポーターの認定制度については、これまで議論いただいてきたが、今回最終案を作成したのでご意見を頂きたい。本日は、他に来年度の広瀬川創生プランの取組事業、重点事業を議事としている。また平成30年度の重点事業の評価を報告する。認定制度については、新年度の4月1日から運用を開始したいと考えているので、皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 議事

○司会（吉田課長）

本日は全15名の委員のうち、12名の方に出席頂いている。過半数に達しているため、本会は成立している。以降の議事の進行は、要綱第6条に基づき小祝会長をお願いする。

○小祝会長

議事の前に確認する。まず、会議の公開・非公開については、非公開となる事案がないので公開として良いか。

=一同了承=

次に議事署名は五十音順で多田委員にお願いしたいが、よろしいか。

=多田委員了承=

それでは次第に沿って、進めさせて頂く。「広瀬川創生プランに係る活動団体の認定制度」について事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

資料 1、資料 2、資料 3、に沿って説明。

○小祝会長

認定制度については、4月1日からの運用を考えている。事務局案について、この場で十分に審議いただければと思う。要綱の詳細な文書整理に関しては、事務局に一任することにする。

では、今の事務局からの説明に対して何か意見はあるか。

○深松委員

企業の立場から見れば、非常に有り難い制度である。出来るだけ多くの人に周知出来るよう工夫頂きたい。特に大企業で仙台に支店がある企業にお知らせしていただきたい。

また、例えばゴールドサポーターを10年続けたら、“プラチナサポーター”になり市長から表彰をいただける等ということも、今後検討してもらえると、より励みになる。

広瀬川1万人プロジェクトの清掃活動には多くの団体が参加しているので、皆さんに喜んでいただける制度だと思う。

○小祝会長

貴重なご意見をいただき感謝する。他に質問・意見あるか。

○村山委員

広く周知するのであれば、例えばサポーターのロゴマークを作成し、名刺に記載できるようにするのはどうか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

ロゴマークについては、前々回の協議会でもご意見をいただいていた。事務局にて継続して検討していく。

○小祝会長

他に何かご意見あるか。なければ、認定制度については事務局提案内容のとおりで良いか。

=一同了承=

○小祝会長

次に平成31年度広瀬川創生プラン取組事業の更新について、事務局よりお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

資料4 に沿って説明。

○小祝会長

ただ今の説明に対して、ご意見あるか。

○多田委員

水・環境ネット東北の活動が中断となった理由は何か。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

取組事業61番の事業については、人員及び資金不足とお聞きしている。

70番の事業については、詳しくお聞きしていないため理由は分からないが、同様の理由ではないかと想定している。

○小祝会長

取組事業の1つである“広瀬川でボート遊び”の活動を行っている広瀬川ボートクラブの菅井委員より何かご意見あるか。

○菅井委員

事務局より説明のあった、2つの新規事業については、ぜひ一生懸命取り組んでほしい。

広瀬川ボートクラブとしては、広瀬川創生プランに関わる取組として、5月の連休に毎年行われる“広瀬川で遊ぼう”のイベントをこれまで主体的に行ってきた。私自身、今年も実行委員長を務めさせていただいているが、実は広瀬川ボートクラブは現在経営危機に陥っている。お客さんが少なくなってきたおり、以前は平日も運営していたが、平日はほとんどお客さんが来ない。そのため土日だけの営業にしてきたが、土曜日も少ない。日曜日は比較的多くのお客さんに来ていただいている。これは、川は危険なため「子供達だけで行ってはいけない」といったことを学校が指導しているためではないか、と考えている。

私どもNPO自身も、今年で10年目となるが、高齢化が進んでいることに加え、役員が他の業務と兼任していることも多く、本来の業務で社会貢献活動にまで手が回らなくなってきている。さらに、これまでボートの運営を管理してきた夫婦が高齢化で継続できなくなった。今後の活動については、これから役員会・総会を開いて模索していく予定であるが、お客さんが少なく、経済的に運営を継続していくのが厳しい状況にある。私自身も去年、会社の役員を退職し新しい社長に交代したが、新しく就任した社長も本業が忙しくボートクラブの運営までは手が回らないようである。これまで企業の社会貢献として取り組んできたが難しくなっている。5月の連休のイベントは、ボートを中心に行ってきたため、ボートが無くなると寂しいと感じている。今後は、例えば1年間休ませて頂き、その間に色々と検討しながら場合によっては休止・廃止も視野に入れながら検討していく。

○小祝会長

貴重なご意見をいただき感謝する。本協議会は広瀬川の創生を目的にしており、協議会として方策を考えていきたい。

他にご意見あるか。

○深松委員

広瀬川市民会議の工藤氏もこれまで色々な活動を行ってきているが、広瀬川市民会議のメンバーも一様に高齢化し、思うように活動できていないとお聞きしている。活動はオールボランティアで行っているので、現役世代は非常に忙しく参加が難しい。定年は65歳だが、65歳以上の方はスポーツジムや図書館にたくさん居るようだ。この年代の方はまだまだ体力があると思うので、こういった方々に広瀬川の活動に参加して頂ける様、周知していくことも考えられると思う。

○小祝会長

貴重なご意見、感謝する。

各団体に任せた活動では継続が難しくなっていると思う。自助・共助では限界があるので今後、公助についても議論していけたらと考えている。事務局でも考慮頂きたい。人材の発掘についても今後の協議会での課題のひとつと認識した。

平成31年度広瀬川創生プラン取組事業の更新については事務局提案内容のとおりで良いか。

=一同了承=

○小祝会長

つぎに、平成31年度重点事業の設定について、事務局よりお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

資料6 に沿って説明。

○小祝会長

重点事業については前年度からの事業の継続を基本としているが、先ほど事務局から説明があったように認定制度導入もあるため、事業を限定せずに幅広く捉えることができる様に設定している。

これについて、ご質問・ご意見あるか。なければ、事務局提案内容でよろしいか。

=一同了承=

4. 報告

○小祝会長

つぎに平成30年度重点事業の評価について、事務局から報告をお願いする。

○事務局（広瀬川創生室 吉澤）

資料7に沿って説明。

○小祝会長

ただ今の報告に対して、ご意見あるか。

まち歩きについては高齢者の方の参加が多いと思うので、その中から広瀬川に関する活動に協力いただける方を募るのも良いではと感じた。

また広瀬川流域の連携として、内水面漁協との連携も考えられると思う。

それでは平成30年度重点事業の報告については以上でよろしいか。

＝一同了承＝

○小祝会長

本日の議事・報告は以上となるが、その他委員の方々から何かあるか。

なければ、その他として、各委員もしくは事務局の方から報告事項等あるか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

来年度の協議会で予定している議事について、事務局よりお知らせしたい。

現行の広瀬川創生プランにおいて、広瀬川市民会議は広瀬川に関心を持つ多くの市民・NPOなどが参加できるネットワーク組織として位置付けている。

しかしながら、広瀬川市民会議は、会員の高齢化に加え会員数の減少といった問題も生じており、プラン策定時に想定したような活動ができていない。

次年度は現行のプラン策定から5年目となる中間年でもあることから、こうした実情も踏まえ、プランの見直しも含めた推進体制のあり方について皆様から、ご意見を伺っていきたい。

○小祝会長

事務局より来年度の取組について説明頂いた。説明頂いた内容については、来年度の重点的な課題としたい。

他に委員の方からご意見あるか。

○西大立目委員

取組事業についてあまりオープンになっていないと感じる。自分のアンテナが足りないのかもしれないが、1つ1つ見ていくと良さそうな活動をしている。スタッフが居なくなって消滅する活動があるが、各団体に全面的に任せていると、これから先ますますこういった事例が増えてくるのではないか。広瀬川ボートくらぶの問題にしても、一NPO団体の内部の話し合いだけで解決しようとするのは難しい気がする。もう少し活動や抱えている問題をオープンにする手助けを協議会や仙台市でできないかと感じた。昨年、河原町商店街の若い経営者の方とまち歩きをする機会があったが、そういったところに話を打ち込む等すれば、違った動きが起きるのではないか。

水・環境ネット東北の活動については、カラバンの菅原さんのような活動を行う人が増えていかな

いと、実際に子供達が川へ足を運ぶ機会がどんどん少なくなっていくと思う。カジカガエルのマップを作成するのも良いが、実際に川で遊んだり、生き物に触れたりできるような仕組み作りを市が考えて準備し、NPO等と連携していかないと、何も無くなってしまうと思った。私は、川に実際に入ったり、水に触ったりすることが一番大切と思っている。何を重点とするかは、それぞれの方々の判断があると思うが、もう少しNPOの活動をオープンにして、市が手助けする支援ができないかと思う。

○小祝会長

貴重なご意見、感謝する。自助、共助では限界があるので公助を考えていかなければいけない。広瀬川は仙台市の重要な資産である。これを未来に託すため、事業の持続可能性についても考えていく必要がある。特効薬というものは無く、地道に活動していくしかないが、時間との勝負もある。今後、協議会で課題として取り上げていく必要があると感じた。

○多田委員

ただいまのご意見に関して、他のNPO法人の方々も似たような課題を抱えていると思う。例えばNPO法人同士で集まって、話し合えるような場を設けると、法人同士の連携が生まれてくるのではないかな。

○小祝会長

貴重な意見、感謝する。西大立目委員、多田委員のご意見を踏まえて、事務局で検討いただきたい。

○小高局長

貴重なご意見、大変感謝する。頂いたご意見を参考にしながら、我々も危機感を持って取り組んで行きたいと思うので、引き続きご協力をお願いしたい。

○小祝会長

他にご意見あるか。なければ、本日はこれで終了とする。

5. 閉会

○司会（吉田課長）

活発な議論をいただき、感謝申し上げます。

以上をもって、第38回広瀬川創生プラン策定推進協議会の一切を終了とする。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

平成 年 月 日

議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会長 _____ (印)

委員 _____ (印)